

## 會 務

土木學會誌 第十六卷第八號 昭和五年八月

○昭和五年六月二十七日役員會を開く、中山前會長、八田、眞島兩副會長、木津、近、眞田、谷口、橋本、平井、前川の各常議員出席、八田副會長議長席に着き下記事項を決議せり。

△故廣井博士記念事業會編纂に係る英和工學辭典讓受に關する同會宛の回答書は原案通り承認すること。

△外務次官より移牒に係る震害調査報告書英譯の件は次回役員會迄保留すること。

△七月十八日午後五時より帝國鐵道協會に於て座談會を開催することとし其の話題を東京市内道路及軌道の補修に關するものとする。

其の他會務に關する事項

○同年七月七日編輯委員會を開く、井上、岡田、菊池、鈴木、田中の各委員及菊池囑託出席、會誌編輯上に就き協議を爲せり。

### 調 査 會 記 事

○昭和五年六月十九日第二十二回用語調査會幹事會を開く、中山委員長、中川幹事長、福田、樫木、鮫島、藤井、富永、田中、糠澤、青木の各幹事及北村、中川兩囑託出席、下記事項に就き審議せり。

△應用力學之部及砂防之部に關する委員意見に就て。

△水理之部及應用力學之部に關する分科會原案に就て。

○用語調査會幹事會原案一部脱稿したるに就き同年六月之を第三回幹事會原案として各委員に配布し八月末日迄に意見を徵することとせり。

○昭和五年七月八日土木學會誌第十六卷第五號發行成規の手續を了し同月十日之を各會員に配布せり。

○同年六月三十日土木學會誌臨時増刊號として土木工事寫眞集を發行し之を第十六卷第五號と共に各會員に配布せり。

○下記諸君は退會せられたり。

會員 山口龍之助君 准員 中本 茂君 同 蜂須賀直昭君

○昭和五年七月一日以降同月末日迄に入會の手續を了し名簿に登録したる者下記の通り（○印は轉格者を示す）。

## 准 員

○飯田房太郎君 桑原重夫君 ○相川正義君 歌代吉高君  
 ○近藤健武君 ○佐藤敏次君 ○須之内文雄君 ○濱田秀雄君  
 原田忠次君 松本三伸君 森十郎君

## 學 生 員

芝原信義君 樋口伸夫君 廣瀬新太郎君 三宅靜太郎君  
 ○昭和五年七月十六日以降八月十五日迄に於て寄贈並交換を受けたる雜誌其の他下記の通り。

## 寄贈の分

The Excavating Eng. No. 7	1 冊	三井物産株式會社機械部
内務省新潟土木出張所沿革と其の事業	1 冊	内務省新潟土木出張所
世界大戰の獨逸教育に及ぼしたる影響	1 冊	啓 明 會
國產自動車試驗報告	1 冊	鐵 道 省 經 理 局
工費の節約と工事の速進	1 冊	西尾銈次郎君
鐵筋コンクリート版の應剪抵抗に關する研究	1 冊	神戶高等工業學校
會報第 7 號	1 冊	日 本 動 力 協 會
學士院記事第 6 號	1 冊	帝 國 學 士 院
研究報告	1 冊	製 鐵 所 研 究 所
工學彙報第 2 號	1 冊	九州帝國大學工學部
工學八月號	1 冊	東 京 工 學 社
工業八月號	1 冊	大 阪 工 業 會
工業之大日本第 27 卷第 7 號	1 冊	工 業 之 日 本 社
工事畫報第 8 號	1 冊	工 事 畫 報 社
工人第 105 號	1 冊	日 本 工 人 俱 樂 部
シビル八月號	1 冊	シ ビ ル 社
信號第 3 卷第 4 號	1 冊	信 號 會
水道第 47 號	1 冊	水 道 會
セメント界彙報第 239, 240 號	2 冊	日本ポルトランドセメント同業會
セメント工業第 8 號	1 冊	土 木 建 材 商 報 社
造幣局研究報告第 3 號	1 冊	大 阪 造 幣 局
鐵道技術第 4 卷第 7 號	1 冊	鐵 道 技 術 社
電氣製鋼第 6 卷第 7 號	1 冊	電 氣 製 鋼 研 究 會

地震研究所彙報第 2 冊	1 冊	地 震 研 究 所
電氣ヴイクトル第 2 卷第 7 號	1 冊	電 力 需 給 促 進 會
土木試験所報告第 17 號	1 冊	土 木 試 驗 所
名古屋工業會報第 81 號	1 冊	名 古 屋 工 業 會
内外工業時報 7 月號	1 冊	最 新 工 學 普 及 會
日立評論第 7 號	1 冊	日 立 評 論 社
日立機械評論	1 冊	同 上
滿洲技術協會誌第 38 號	1 冊	滿 洲 技 術 協 會
三菱電氣第 6 卷第 7 號	1 冊	三 菱 電 氣 神 戶 製 作 所
ワツト第 7 號	1 冊	ワ ッ ト 社
交換の分		
衛生工業協會誌第 7 號	1 冊	衛 生 工 業 協 會
機械學會誌第 159 號	1 冊	機 械 學 會
業務研究資料第 20—28 號	9 冊	鐵 道 大 臣 官 房 研 究 所
建築雜誌第 535 號	1 冊	建 築 學 會
工業化學雜誌第 8 冊及同歐文版	2 冊	工 業 化 學 會
港灣第 8 號	1 冊	港 灣 協 會
帝國鐵道協會々報第 7 號	1 冊	帝 國 鐵 道 協 會
鐵と鋼第 16 年第 7 號	1 冊	日 本 鐵 鋼 協 會
電氣學會雜誌第 504 號	1 冊	電 氣 學 會
日本建築士第 7 卷第 1 號	1 冊	日 本 建 築 士 會
日本鑛業會誌第 543 號	1 冊	日 本 鑛 業 會

准員廣瀬龜久雄君，同諸田山三郎君，同武本壽道君，同駒井勝太郎君は逝去せられたり，本會は謹んで哀悼の意を表す。

## 雜誌閱覽に就ての會告

下記の雜誌は本會事務所に備付置候間御希望の向は下記時間内御隨意に御閱覽相成度候。

### 閱 覽 時 間

日曜日及祭日休、土曜日自午後一時至同四時、其他自午後四時至同八時。

但し役員會、委員會等開催の日は御斷り致すこと有之哉も計られず候間豫め御承知置被下度候。

### 備 付 雜 誌

Engineering  
Engineering News-Record  
Le Génie Civil  
Railway Gazette  
衛生工業協會誌  
機械學會誌  
業務研究資料（鐵道大臣官房研究所）  
建設  
建築雜誌  
工學部紀要（東大、京大、九大）  
工學報告（東北帝大）  
工業化學雜誌  
工事畫報

工 港 政  
港 灣  
國 際 建 築 時 論  
造 船 協 會 々 々 報  
帝 國 鐵 道 協 會 々 々 報  
鐵 道 鋼  
電 氣 學 會 誌  
電 氣 製 鋼  
土 木 建 築 雜 誌  
日 立 評 論  
名 古 屋 工 業 會 々 報  
滿 洲 技 術 協 會 誌  
其 他 寄 贈 雜 誌

廣 告 料（東京市京橋區築地上柳原町八番地 東京第一通信社取扱）  
電話京橋 872 番、振替東京 3069 番

普通廣告 一回一頁 40 圓 一回半頁 25 圓

指定廣告	裏表紙三面對向 及廣告初頁	一回一頁 60 圓
		一回一頁 150 圓
		一回一頁 75 圓

色アート

○指定廣告は凡て一箇年繼續申込のものに限り取扱ふものとす

○會員自身の廣告に對しては總て上記料金の一割引とす

○同一廣告の連續掲載申込に對しては半箇年分五分引、一箇年分一割引とす

○廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

## 新入會者にして既刊會誌希望者に告ぐ

本會々誌は新入會者には入會の月より以降發行に係るものより配布致すべきに付其の以前の會誌御希望の場合は一部に付下記金額振替口座東京一六八二八番に拂込み用紙通信欄に其旨記入請求せられたし

### 殘 部 内 譯

第五卷一號二號	一 部 金 壹 圓 五 拾 錢
第六卷六號	同 金 壹 圓 五 拾 錢
第七卷二號三號四號	同 金 壹 圓 五 拾 錢
第八卷一號	同 金 壹 圓 五 拾 錢
第九卷一號二號三號五號六號	同 金 壹 圓 五 拾 錢
第十卷二號三號四號五號六號	同 金 壹 圓 五 拾 錢
第十一卷二號	同 金 壹 圓 五 拾 錢
第十二卷二號三號五號六號	同 金 壹 圓 五 拾 錢
第十三卷二號三號六號	同 金 壹 圓 五 拾 錢
第十四卷一號二號三號四號五號六號	同 金 壹 圓 五 拾 錢
第十五卷一號二號三號四號五號六號	同 金 壹 圓 五 拾 錢
同 七號八號九號十號十一號十二號	同 金 壹 圓 五 拾 錢
第十六卷一號二號三號四號五號六號	同 金 壹 圓 五 拾 錢
同 七號八號	同 金 壹 圓 五 拾 錢
東京市内外交通に関する調査書	同 金 壹 圓 五 拾 錢
震害調査報告書(一、二、三)	同 金 壹 圓 五 拾 錢
土木工事寫真集	同 金 壹 圓 五 拾 錢

### 本會會員轉居又は旅行の場合の注意

會員の住所の不明なるときは會誌の配布を始め其他通信上に差支候に付御轉居の際は至急明細に御通知相成度又御旅行等にて御不在となるも會費支辨には差支なき様御配慮相成たし

### 會 費 納 付 に 付 注 意

本會々費は下記の通りにして本會より發する振替集金に對し是非御支拂願度事若し此の集金書へ十五日間中三回の取立金支辨なき場合は最寄郵便局に就き本會振替口座東京一六八二八番に(拂込用紙通信欄に會費たる事を記入の事)御拂込相成度尙會費一時納付の御豫定又は其の他の都合に依り支辨なき場合は直に御通知相煩度

朝鮮滿洲の一部及び青島等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末頃迄集金を受けざる時は爲替其他の方法に依り直ちに御送金相成たし

會員種格	會費年額	自一月至四月 第一期分二月徴收	自五月至八月 第二期分六月徴收	自九月至十二月 第三期分十月徴收
會 員	金 拾 八 圓	金 六 圓	金 六 圓	金 六 圓
准 員	金 拾 貳 圓	金 四 圓	金 四 圓	金 四 圓
學 生 員	金 七 圓 五 拾 錢	金 貳 圓 五 拾 錢	金 貳 圓 五 拾 錢	金 貳 圓 五 拾 錢

新に入會したるものは月割算として入會の翌月集金を發す

### 會 費 未 納 に 付 注 意

會費は從來年額を第一期第二期第三期に分割し毎年二月六月十月に振替貯金郵便として取立方を郵便局に依託の處往々集金郵便に對して故なく支辨を拒絶し尙他の方法に依りても送金なき者あれ共斯くては會費滞納者として遺憾ながら規則第十三條第一項に依り遂に會誌の配布を停止せらるゝに至るべく又本會に於ても未納金督促の手數一通ならず故に今後右様のことなき様特に御留意の上集金郵便に御拂込相成た

### 會 誌 未 着 の 場 合 の 注 意

會誌は毎年毎月十五日(印刷又は原稿等の都合に依り遅延する事あり)に發行し漏なく配布すべきに付未着の場合には一應本會に御照會相成たし從來往々發行後數ヶ月経過して照會せらるゝ向あるも斯くては殘部皆無となり遺憾ながら配布不可能のことあるべきに付御留意相成たし